

長崎高教組

# 定通部だより

2014年8月25日

第3号

発行責任者 今泉 宏

ホームページ <http://nagasaki-kokyoso.org>

メールアドレス [info@nagasaki-kokyoso.org](mailto:info@nagasaki-kokyoso.org)

## 2014年全国定通教育学習交流集会 in 三浦

### テーマ「学校と社会をつなぐ」

日程・会場 2014年7月25日～26日 神奈川県三浦市 マホロバマインズ三浦

参加者 濱本功二（佐中夜）河田朗子（鳴滝通）今泉 宏・烏山隆弘（鳴滝夜）

#### （1）講演「教育の無償化の課題と展望について」

講師 三輪定宣さん（千葉大学名誉教授、奨学金の会会長）



日本は世界的に見ても家計負担教育費が突出して高く、「世界一の高額費」の国と言われている。その一方低所得層が増え、教育の機会均等が形骸化してきている。その結果、少子化が加速し、人口半減社会、国の疲弊・衰退につながっている。教育の機会均等を実現するには、公立高校の授業料をすみやかに無償化に戻し、学校教育費負担も優先順位を決めて、順次無償化することを提言された。

さらに国公立大学についても授業料を無償とし、私立についても公費助成を大幅に拡充することを主張された。財政的には欧米並の教育予算を確保すれば、給付制奨学金導入も含めて実現可能ということ具体的数値を示されて話された。

戦前の軍国主義教育は個人の尊厳を破壊し、命を捨てることを奨励する教育であった。戦後の教育は個人の尊厳を大切にすることを掲げてきたが、果たして子どもたち一人一人を大切に扱ってきただろうか。すべての子どもたちが平等に学べる機会を保障するためにも、教育の無償化を実現しなければならないと力強く話されました。

その後のしゃべり場では、各県の修学支援金の問題点、特に単位制高校における問題点が出されました。

#### （2）特別報告「横浜市における若者就労支援とコミュニティ経済」

講師 関口昌幸さん（横浜市政策局政策課）

行政の立場からの実践とりくみ報告。若者の就労の状況、家庭の状況などのデータを分析し、特別支援の必要な生徒、貧困家庭の生徒が就労できるしくみを地域社会とともにつくる提言を行い、実践されている報告。福祉を基軸にした中間的就労を取り入れながら、地域で経済を循環させる仕組みを構築することで、地域の問題を解決。縦割行政の横つなぎを進め、支援から漏れてしまう生きづらさを感じる人々のパーソナルサポートを行っている。昨年に続きの参加で、どの自治体でも見習って取り入れて欲しい内容だった。



### (3) 高校生フォーラム



最初に地元の夜間定時制の生徒が「翼をください」と「見上げてごらん夜の星を」を先生のギターに合わせて合唱した。とても感動的だった。その後、全国から参加した7人の高校生によるフォーラムが行われた。

さまざまな生徒が在籍する定時制高校は全国どこも同じ感じがする。年配の方、やんちゃな人、日本語を母国語としていない人いろんな方が通っている。生徒会はあるけど先生の指示通りしか動かない、それではいけないと思っている高校生もいた。生徒会でみんなの要望を聞いて、学校に要望している学校もある。校則はないが、社会のルールが、学校のルールという学校

が多い。近隣の苦情、これは定時制の宿命か。悪いところではなく良いところを見るのが誇りになる。いろんな定時制高校の生徒の考えを聞いた良い機会だった。今年は残念ながら長崎からの高校生の参加はなかった。

### (4) パネルディスカッション「学校と社会をつなぐ」

#### 1) コーディネーター 東海林 智さん(毎日新聞記者・厚労省担当)

最初に東海林さんが記者として取材された今の労働環境の現状について報告をおこなった。

人がトヨタ方式雇用になっている。必要なときだけ使われる。勝手に休憩入れたり、残業させたり、特に居酒屋など飲食業に多く見られる。まるで部品のように使われるジャストインタイム型労働。

非正規労働が基幹化している。ベローチェ(コーヒーショップ)ではアルバイトに店長代理の仕事を任せている。このように非正規労働者が店を切り盛りしている現状で多くの問題が発生している。

また最近アルバイトが集まらないとの報道がなされている。労働者は責任は負わされるし、これまで安すぎたので信用していない。アルバイトにノルマを課す。ノルマ達成できないと自分が買われる。これでは集まらないのが当然。

高校生の就職内定率は過去最高と言われているが、仕事は劣化している。企業は採用意欲はあると言っているが、良い人がいなかったら募集人数を採らない。その際は非正規でまかなっている。仕事に対してモノを言わない人が多い、言われた通りにする人が多くなっている。さらに就職試験で失敗続きの若者は、自己肯定感がなくなっている。そのような若者がヘイトスピーチに参加している。自分が就職できないのは、外国人が日本人の仕事を奪っていると明らかに間違った思考になっている。(東海林智氏著「15歳からの労働組合入門」が参考になります)

#### 2) パネラー 山田祐司(戸塚高校定時制ガイダンス部)

民間経験5年。4年間見通した、就職のためのガイダンス指導を行っている。

社会人と話そうでは、現場で活躍する様々な職業人に来てもらう。話を聞くだけでなく、企業側にも生徒を知ってもらう。学校は閉鎖的な部分が多いので外部にお願いすることを先生方に理解してもらうことが難しい面もある。若い先生にも説明していかなければならない。

今年の卒業生は大学4、専門11、就職30、バイト継続28、未定12であった。

#### 3) パネラー 岩本真実(K2インターナショナルグループ)

横浜市の民間の若者支援団体、26年目になる。ひきこもり、不登校、発達障害などの生徒の就労支援をしている。当初は不登校が多かった。

現在サポステの仕事も請け負っている。市内の高校訪問し、連携を計っている。

訪ねて来る人は、大卒3割、高卒が一番多い、高校中退もいる。高校時代困難者7割、働いた経験者4割、不登校経験者4割。

共同生活型(合宿型)のフリースクールでは働くことを念頭においている。現在、お好み焼き屋を3店舗経営しており、K2の出身者で運営を行っている。

民間と学校がつながることは最初むずかしかった。そこで最初は卒業生対象。次に卒業学年の生徒とつながり、就労支援をするには下の学年からサポートが必要と感じ、下の学年に広がっていった。



現在は地元高校の通信制のキャリアサポートの授業も担当している。ワークショップ、就労体験、インターンシップなど。授業外でも相談を受けている。生徒や親から頼れる場所を提供している。在校生のうちから、卒業後を見据えて活動をしている。サポステに対しては、国の支援の態度が毎年変わって困っている。

#### 4) パネラー 綿貫公平 (元中学教師・全進研代表世話人)

一昨年の春まで中学校に勤めていた。以前から退職後は NPO で働く決めていた。今この NPO はサポステの委託費で運営している。しかし、国はサポステをなくしたいと考えているようだ。

大学院を出たのに就活失敗、引きこもりの人などいろんな人がいる。子どもの貧困、過去最高である。

かつて、都立高校は一つと言っていたが、今は都立高校はひとつずつ、社会の階層化を肯定している。進学校出身の若者に疑問を感じる。自分の高校のイメージで先生になる。高卒で就職する生徒がいることを知らなかった。働くルールも知らない。

私は高校入試廃止論者。しかし、いい加減な人たちと一緒にしてほしくない (自己責任感覚) の若者も多い。

日本はすきまを認めない世の中。卒業したら即就職。自分で考える力を先送りしている。

#### (5) コメンテーターによる集会のまとめ

##### 1) 関口昌幸さん

若者の就労のあり方が劣化している。一方サポステを派遣会社が受けているところもある。そこがブラック企業になる悪循環になる場合もある。育てていくには世の中と格闘をしなければならない。誰と組むのか、どうやってお金を集めるのか。良い企画をしても、最終的に行政にからめとられ、補助金切られるとなくなってしまう。

##### 2) 三輪定宣さん

現代社会は病んでいる、その病が心の病になっている。若者が病んでいる。

21世紀の教師像、ユネスコが勧告。新しい専門的力量として、コーディネート能力の育成がコアとなっている。学校の中での専門職ではなく、地域と連帯、地域を変えていく力量を問われている。今日の集会で話されたことは国際社会が目指す教師像の先取りになるのではないか。

生徒の生の声にヒントがある。無償教育。人類の歴史の99.7%は無償教育だった。無償で地域の子どものことを育てることが人類を発展させてきた。200年前から資本主義社会になり有償になってきた。教育を金儲けにする世の中になってきた。国際人権A規約第13条の「あらゆる教育を無償化する。」を今こそ実行に移すとき。

## 2014 年度全教定通部定期総会

日程・会場 2014年7月27日 神奈川県三浦市 マホロバマインズ三浦  
参加者 濱本功二 (佐中夜・全教定通部常任) 今泉 宏 (鳴滝夜・議員)  
烏山隆弘 (鳴滝夜・代議員)

日高教定通部から全教定通部が変わった初めての総会が、7月27日に開催されました。

まず、13年度の運動の総括を行い、その後14年度の活動方針を決定しました。役員改選では、引き続き佐世保中央定時制夜間部の濱本先生が全教定通部の常任の任にあられることになりました。

討論は、授業料 (修学支援金、奨学給付金)、SSWを含めた教員配置、統廃合の状況、賃金、権利などその他の4本の柱で行いました。

討論の中で、本県からはSSW導入までの経過、現在の状況を報告しました。また支援金や給付金についてはどの県も混乱が見られ、全国調査を行うことが提案されました。長期休業中の勤務時間や広域性通信制の問題なども話題となりました。

7月25日 (金) から27日 (日) まで大変充実した3日間を過ごすことができました。(今)



## 参加者の感想

河田 朗子（鳴滝通）

7月25日から7月26日の2日間、神奈川県三浦市で開催された、2014年全国定通教育学習交流集会に参加させていただきました。

1日目は、三輪定宣さんの講演を聴講しました。『教育の無償化の現状、課題と展望』と題された講演は、丁寧な資料と説明で、不勉強な私にも現状の抱える問題点（格差・貧困の拡大・再生産など）が明確に理解できる内容でした。特に「教育を受ける権利、教育の機会均等の形骸化」については、日々の自分の不見識と問題意識の甘さを改めて痛感させられました。講演後の質疑応答、しゃべり場での現状報告や活発な意見の交換を見るにつけ、その場で発言するにふさわしい確固たる意見を持たない自分を少なからず恥じたことです。資料の中に記されていた教育基本法の「国および自治体は、経済的理由によって修学が困難な者に対して、少額の措置を講じなければならない。」という文言の重みを改めて実感できる講演でした。

2日目は、午前中に先生方の寸劇（演技力にかなりのばらつきがあり、そこが絶妙）を楽しみ、関口昌幸さんの特別報告「横浜市における若者支援とコミュニティ経済」を聞きました。横浜市政策局の職員として、関口さんが現場で直面された学生たちの現状、抱える問題とその背景、それに対する取り組みについてのお話でしたが、それぞれに異なった事情をもつ学生たちの身になってご苦労されている姿勢に、胸が熱くなりました。

午後からは、定時制の生徒さんたちの歌とフォーラムが行われました。生徒さんたちの歌声と教育制度や学校に対する生の意見は、昼食と真剣な聴講の影響で、若干臉が重たくなりかけていた私にとって、まさに心の清涼剤でした。

（実はこの時間が一番楽しかった気がします。）

生徒さんたちのフォーラムの後には、「学校と社会をつなぐ」をテーマにパネルディスカッションが行われました。コーディネーターに毎日新聞の東海林智さんをお迎えし、3校の先生方がそれぞれの学校の取り組みを発表されました。中でも私が興味をそそられたのは『中学校の視点から「高校教育」へ思うこと』と題された綿貫公平先生の発表です。これまで私が考えたこともなかった観点から（私が不勉強なだけかもしれませんが）高校入試について検討しておられ、目から鱗が落ちるような感にとられました。

勤務の都合で、パネルディスカッションの先生方の発表までしか参加できませんでしたが、その後の質疑応答、しゃべり場での先生方のご

意見やご質問を聞けなかったことが、今となつては大変心残りです。他県、他校の先生方の発表やご意見を聞くにつけ、自分の不勉強ぶりを突きつけられている心持がして、反省会のような気分になることもしばしばでした。しかし、それ以上に、学ぶことの多い、楽しい経験をさせていただいたと思っています。

最後に、できる限り学校から離れようとしないう不出精な私に、今回の学習交流会参加を勧めてくださった方に感謝申し上げて、この駄文の締めくくりとさせていただきます。



左から濱本、烏山、河田、今泉

烏山 隆弘（鳴滝夜）

就学支援金・奨学給付金の制度や手続きについて学習を深めたり、SSW活用方法や学校統廃合、多部制について情報交換ができました。全国の先生方、生徒や保護者、専門家のみなさんと交流を深めることができ、大変有意義な研修となりました。

## 九州・中国・四国ブロック 定通部学習交流集会 のお知らせ

11月1日（土）～2日（日）



山口県湯田温泉で開催されます。

詳しい案内は後日各分会に送ります。皆様の

積極的な参加をお待ちしております。